

## 編集後記

2018年度も無事、図書館学年報の刊行に至ることができた。巻頭言は教育支援機構長の植木朝子先生よりお言葉をいただいた。植木先生には日頃、免許資格課程センターの業務をはじめ、図書館司書課程、司書教諭課程、大学院図書館情報学コースについて等、様々な形で大変お世話になっている。また、センターに関しては、今年度から司書課程・司書教諭課程について高橋様から替わって再び出口様にお世話になっている。印刷をお願いしている木村桂文社様、協力いただいた学生諸君にもあわせて、ここで感謝を述べたい。

今年度はIFLA（国際図書館連盟）の年次大会に参加し、原田先生と共同で発表した古畑さんより、学会参加体験記を寄稿いただいた。学生らの活発な様子が少しでも伝われば幸いである。

同志社大学図書館情報学研究会（DUALIS）は本年も図書館総合展での発表等、盛んに活動している。その活動記録を釘丸さんに執筆いただいた。さらにDUALISの発足メンバーの一人である宮津市立図書館の有山さんをはじめ、堺市立中図書館の松谷さん、京都府立福知山高等学校・附属中学校の川上さん、京都府立京都八幡高等学校の稲井さんから「私の仕事 この一年」のご寄稿をいただいている。皆さんの生き生きとしたお仕事の様子を感じていただければ幸いである。一方の採用については、今年は新卒・既卒あわせて把握している限りで4名が公立図書館・学校図書館・国立国会図書館に正規職員として採用されることとなった。神戸市に採用された小野寺さん、埼玉県採用の小柳さん、京都府（学校司書）採用の森さん、そして国立国会図書館採用の山田さんである。皆さんの「司書合格体験記」はこれから採用を目指す学生にとってはたいへん有益な情報であり、ぜひ活用いただきたい。もちろん、新規採用の皆さんの今後のご活躍にもぜひご期待いただきたい。

今年度も育児中のため、多くの業務を原田先生にお任せすることになった。二年続けて多大なご負担をいただいた原田先生に心より感謝を申し上げます。当然ながら来年度以降も育児中となるので、原田先生はじめ皆様、引き続き何卒、よろしくお願い申し上げます。

（佐藤翔）